

インターバンクの声（2016年4月1日）

年度末の2日間、何とか112円台をキープしたドル円だったが、海外の投資家にとっては積極的にトレードするような対象の通貨ペアではなかったのかも知れない。むしろ3月に入ってから、2度も3度も大幅に下落しそうになるたびに反発を繰り返して来たユーロ・ドルが絶好のトレード対象通貨ペアだったようだ。先週の後半に1.11ドル台にまで売り込まれた後、月末になって1.13ドル台にまで反発していたので、そろそろ売りに転じても良い頃だろうと判断したファンド勢も多かったらしい。ところが、結局昨日もロンドン市場の早朝からニューヨーク市場の昼頃まで上昇しっぱなしの展開になってしまった。3月末は多くの本邦勢にとっては年度末という重要な節目で、ディーラーの世界ではこの局面で損失を計上することは暗黙裡にタブー扱いされているが、外資勢にとっても一応四半期末の節目であることに変わりはなく、やはり損を出してもいいという訳ではない。その意味でも昨晚のユーロの上げ一辺倒の相場展開には参ったはずだ。ニューヨークの最後の数時間の値動きを見れば、ディーラーの意識が今晚の米雇用統計に移っていることがわかる。本邦のディーラー達にとっては一カ月ぶりの長い一日だ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。